



花のしおり

石川県立金沢伏見高等学校
図書委員会
令和4年5月2日発行

図書だより
147号



『春風駘蕩』(しゅんぷうたいとう)

春の風が暖かく、のんびりと吹いている様子。

江戸時代に発行された歳時記(『改正月令博物笈』かいせいげつれいはくぶつせん)にも、「春吹く風はのどかにして、しずかなるものなり」と書かれています。

また穏やかでゆったりした人柄をあらわすことばとして使われることもあります。

みなさんは新学期から授業や部活で忙しい高校生生活を送っていることでしょう。穏やかな風が渡る図書室で本を借り、のんびりとした昼休み読書はいかがですか。

読書時間で、リラックスタイムを作ってみてくださいね。

(『話したい、使いたい 心ときめくことばの12か月』引用)

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

図書室の本の返却について

2. 3年生で本を借りたままになっている人は忘れずに返却しましょう。

自宅に図書室の本が置いたままになっていないか確認してみてください。

学校の本はみんなで共有する本です。

マナーを守りましょう。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

受賞作品紹介(未所蔵本ですが所蔵予定)

本屋大賞『同志少女よ、敵を撃て』 逢坂 冬馬 著

本屋大賞 翻訳小説部門

『三十の反撃』 ソン・ウォンピョン著・矢島暁子訳

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

令和4年度 図書委員紹介

1年間よろしくお願いします。

委員長 後 明希(36H)・副委員長 荒山 優奈(36H)

活動予定では、年2回の図書館講座、図書室展示企画、図書館だよりの作成、清流祭での古本市、蔵書の選書があります。

みなさんの参加やご協力も、よろしくお願いします。



委員活動

学校図書館は、学校の勉強や部活動に必要な図書や資料を集め、それを整理して学校全体の人々に利用してもらうサービス機関です。

図書委員は、こういう図書館の役割を生徒の立場から理解し協力します。右記の係に分かれて活動していきます。

◆ 講座係	■ 展示係	★ 広報係
大崎 真優 (11H)	佐藤 優衣 (12H)	東 那実 (13H)
山下 美空 (11H)	辻 柚羽 (12H)	落合 輝旭 (13H)
泉 はるか (16H)	北尾 祥也 (14H)	佐藤 美月 (15H)
宮城 望愛 (16H)	寺地 心桜 (14H)	中田 那乃 (15H)
磯部 優菜 (23H)	橋本 環来 (22H)	佐野 彩音 (21H)
蟹屋敷 姫菜 (23H)	藤田 杏菜 (22H)	杉村 湖々奈 (21H)
小林 みずき (24H)	北倉 望羽 (26H)	田中 有咲 (25H)
藤田 愛葉 (24H)	河田 あかり (26H)	茶山 好雪 (25H)
竹田 華菜 (33H)	木村 優花 (31H)	立端 心菜 (35H)
兵井 蘭 (33H)	西山 愛梨 (31H)	目黒 桃香 (35H)
小坂 乙葉 (34H)	福田 もも (32H)	荒山 優奈 (36H)
谷川 愛華 (34H)	松田 保乃香 (32H)	後 明希 (36H)

新任の先生が
紹介する好きな本
・おすすめの本

(未所蔵の資料は所蔵・収集予定です。)

川口美江子校長先生(数学)
「ランチのアッコちゃん」 柚木麻子著

地味な派遣社員の三智子は彼氏にフラれて落ち込み、食欲もなかった。そこへ雲の上の存在である黒川教子部長、通称「アッコさん」から声がかかる。「一週間、ランチを取り替えてみましょう」。気乗りがしない三智子だったが、アッコさんの不思議なランチコースを巡るうち、少しずつ変わっていく自分に気づく(表題作)。

人間生きていれば、楽しいことばかりではありません。思い通りにならないことの方が多いかも…。でも、つらいことばかりじゃないかな、と思える本です。読むほどに心が弾んでくる。読むとどんどん元気が出るスペシャルビタミン小説！読み終えたら元気になるだけでなく、きっと何か食べたくなるでしょう。

何度も読んだ本ですが、元気になるにしたい時に「読みたい」と思う本です。

宮崎謙治先生(地歴公民)

「背教者ユリアヌス」 辻邦生著

様々な苦難の末、ローマ皇帝となったユリアヌスは、若い頃に心ならずもキリスト教の洗礼を受けたが、即位後は古来の神々の再興をはかったため、後年背教者と呼ばれている。

物語では、ユリアヌスが皇帝へと上り詰めていくストーリーとともに、貧しき者、虐げられた者に救いを与えていたキリスト教が、ローマ帝国に公認された後は、権力と結びその教えを変容させていく有様が描かれている。宗教とは何か、また宗教が権力と結びつくことの危うさを教えてくれる小説でもある。

田嶋亜希乃先生(理科)

「下町ロケット」 池井戸潤著

ドラマ化されていたので、知っている人も多いと思います。

宇宙開発機構の研究員をしていた主人公・佃航平は、父親の死をきっかけに家業を継ぎ、佃製作所の社長に。下町の中小企業から、日本トップレベルのロケット開発に挑む、波乱万丈な人間模様とビジネスに目が離せません。いくつになっても夢を持ち、それに向かって楽しみを見出しながら努力する姿に、きっと心動かされることでしょう。

外内都萌先生(国語)

「望郷」 湊かなえ著

ある島を舞台にした六つの話。

様々な状況での人間ドラマが繰り広げられています。故郷は懐かしいもの、愛するもの、憎むもの一色々な想いが読みとれるので最後まで一気に読むことができます。ぜひ。

鴨田祐介先生(地歴公民)

「蝉しぐれ」 藤沢周平著

普段小説など一切読まない私が、唯一といっても過言でないくらい夢中になった一冊です。

映画化された作品はコメディ要素もあって面白いです。これから夏を迎えるこの時期に、興味があればぜひ！

北康典教頭先生(地歴公民)

「せんせい。」 重松清著

どれも教師として、ちょっとした痛みやほろ苦しさを感ずる短編6編。

うまくいかないときに読みたくなる本。

「せんせい」も人間だよな…。と、そしてまたがんばろうと思える1冊です。

井波真裕先生(体育)

「きっと明日はいい日になる」 田口久人著

とにかく、読むだけで前向きになります。

元気になります。

心がきれいになります。

鈴木信行室幹先生(数学)

「もし高校野球の女子マネージャーが
ドラッカーの「マネジメント」を読んだら」

岩崎夏海著

通称『もしドラ』。アニメ化、映画化もされているので、知っている人も多いと思います。

高校生にとっては身近な内容なので、読みやすいと思います。

高校生が成果を上げるために、工夫して活躍する姿から、良い刺激が得られることを期待します。

小坂夏生先生(体育)

「チースはどこへ消えた？」

スペンサー・ジョンソン著

変化、そして進化することに勇気をくれる本です。

川嶋康江先生(英語)

「貝に続く場所にて」 石沢麻依著

学校の図書室で借りて読みました。

東日本大震災から10年、コロナ禍のドイツで、過去と現在が交錯する幻想的な物語です。

ストーリー性ではなく、1文1文を味わいながら読んでいく作品でした。

まるで夢の中のような趣があります。

谷村勇二先生(理科)

「眠れなくなるほど面白い図解 脳の話」

茂木健一郎著

AIには負けない、人の脳の可能性を考えることができます。

日常生活の身近な疑問で色々な謎を解明しています。

自分の脳の力を最大限に発揮させる方法がわかれば、自分自身を知ることになるのではないのでしょうか。

新田哲也先生(数学)

「バカの壁」 養老孟司著

社会人になって初めて読んだ本です。読む人によって賛否両論ありますが、自分の視野を広げるといってとても参考になった本です。